

平成29年度鳥取県中学校教育研究会夏期研修会実施レポート

- 1、日時 平成29年8月16日(火) 9:30~15:30
- 2、会場 鳥取市立青谷中学校
鳥取県鳥取市青谷町青谷4190-1 (0857) 85-0905
- 3、主催 鳥取県中学校教育研究会 音楽部会
(平成29年度鳥取県教育センターアドバイザー派遣事業)
- 4、内容 講義・演習「魅力ある音楽科の授業づくり」
講師 玉川大学芸術学部 教授 清水宏美 先生

○講義Ⅰ 表現領域における授業実践

- ・授業「創り」の基本
- ・現在の音楽授業の課題と研究の方向性
- ・歌唱と鑑賞との関連
- ・創作における指導と評価

○講義Ⅱ 鑑賞領域における授業実践

- ・鑑賞の指導と評価
- ・器楽から創作へ

本研修では、清水教授から東京都中教研音楽部会研究部長として重ねてこられた様々な授業研究や実践を学ぶことができた。本県の音楽科教員が一番学びたい「創作」についてリコーダー、和太鼓を用いて演習をおこない、授業をつくる上で大変参考になった。また地域教材である「貝殻節」を実際に題材化していただき、模擬授業の中で郷土の魅力を再発見することができた。そのほか評価方法や、3年間の系統性、既習事項とのつながり、研究や若手教員の育成方法などについても学ぶことができ、本県の音楽科教員が授業力を高める上で有意義な研修となった。

講義感想

【民謡の特徴を生かして
貝殻節を歌おう】

2年歌唱教材「サンタルチア」との比較や「ヨーデル」から「グレゴリオ聖歌」など世界の発声や楽曲の鑑賞との関連性を持たせることで、我が国の文化や民謡に関する視点や気づきが明確になる授業を、地域教材「貝殻節」を用いて題材化していただくことができた。

【自分だけの旋律を創って
仲間とアドリブ演奏を楽しもう】

1年生の創作から「旋律」を創作する授業だが、順次進行と跳躍進行のルールや、ジャズのコードを使用することにより簡易に旋律を創ることができる工夫があった。また「フェイク」を入れることで「即興的」に音楽を楽しむことができる発展性のある授業構成であった。

【和太鼓を用いた創作】

和太鼓による創作は、ダイナミックで発散的であったが、楽器の整備や器楽分野での時数確保など、取り入れていく難しさも感じた。